

4. 金山古墳

博物館から8 kmほど南にある河南町の金山古墳は、大小2つの円墳が繋がった、双円墳という日本では非常に珍しい形をしています。このような形の古墳は朝鮮半島の新羅の都、慶州の王墓に見られます。この特徴から金山古墳に葬られた人物が新羅と何らかの関わりを持っていた可能性も考えられます。

この展示では、北側の小さいほうの円丘につくられた横穴式石室の内部を実際の大きさを再現しています。また発掘調査はされていませんが、南側の大きい方の円丘にも同じように横穴式石室があることが知られています。

目の前に並ぶ2つの大きな石の棺（ひつぎ）は、家形石棺と呼んでいるものです。石棺の背後に見える枠組みは、横穴式石室の石積みを表現していることに気づかれましたか？こうした石棺の形や横穴式石室のつくりから、今からおよそ1400年あまり前の6世紀末から7世紀初め頃につくられた古墳と考えられています。

この頃は遣隋使の派遣にみられるように、直接中国との国交を開始し、その優れた文物を積極的に採り入れるなど、我が国の外交政策が大きく転換する時期にあたります。金山古墳をはじめとするこの時期の古墳は、当時の対外関係を知るうえで重要なヒントを与えてくれそうです。